

Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1

機能更新およびリリースノート



Part No: E35525-01
2012年6月

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	5
関連ドキュメント	5
ドキュメントのフィードバック	6
製品のダウンロード	6
Oracle ILOM 3.1 ファームウェアのバージョン番号方式	7
サポートとアクセシビリティ	8
Oracle ILOM 3.1 時点での機能拡張	9
機能拡張のサマリー	9
Oracle ILOM 3.1.x ファームウェアに対する更新	13
サーバーおよび Sun Blade 6000 CMM に対する最初の 3.1 ポイントリリース	13
Oracle ILOM 3.1 の既知の問題	14
Oracle ILOM 3.2.1 時点での WS-Man の非推奨通知	16
翻訳されたドキュメントのドキュメントタイトル	16

このドキュメントの使用法

『機能更新およびリリースノート』では、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ファームウェアに関するファームウェア機能拡張、既知の問題、および回避方法について説明します。

このガイドは、Oracle ILOM 3.1 ドキュメントライブラリのその他のガイドと一緒に使用してください。このガイドは、技術者、システム管理者、Oracle 認定サービスプロバイダ、およびシステムハードウェアの管理経験があるユーザーを対象としています。

- 5 ページの「関連ドキュメント」
- 6 ページの「ドキュメントのフィードバック」
- 6 ページの「製品のダウンロード」
- 7 ページの「Oracle ILOM 3.1 ファームウェアのバージョン番号方式」
- 8 ページの「サポートとアクセシビリティ」

関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://www.oracle.com/documentation
Oracle Integrated Lights Out Manager (Oracle ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31
システム管理、単一システム管理 (SSM) のセキュリティ、および診断のドキュメント	www.oracle.com/technetwork/documentation/sys-mgmt-networking-190072.html
Oracle HardwareManagement Pack 2.2	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp

注: 使用している Sun サーバプラットフォームに固有の Oracle ILOM 3.1 ドキュメントを見つけるには、そのサーバに用意されている管理ガイドで Oracle ILOM のセクションを参照してください。

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントについてのフィードバックをお寄せください:

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

製品のダウンロード

各 Sun サーバーまたは Sun ブレードシャーシシステムの Oracle ILOM 3.1 ファームウェアの更新は、My Oracle Support (MOS) Web サイトからダウンロードできるスタンドアロンのソフトウェア更新プログラムによって入手できます。このようなソフトウェア更新プログラムを MOS Web サイトからダウンロードするには、次の手順を参照してください。

▼ 製品のソフトウェアおよびファームウェアのダウンロード

- 1 <http://support.oracle.com> にアクセスします。
- 2 **My Oracle Support** にサインインします。
- 3 ページの上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。
- 4 「検索」タブの上部にある「パッチ検索」パネルで、「製品またはファミリー(拡張検索)」を選択します。
- 5 「対象製品」リストボックスで、製品名の全体または一部を入力し、一致する製品のリストがリストボックスに表示されたら該当する製品名を選択します。
製品名の例: Sun Fire X4470 M2 Server または Sun Enterprise SPARC T5120。
- 6 「リリース」リストボックスで
 - a. 「リリース」リストボックスの下向き矢印をクリックして、一致する製品のフォルダのリストを表示します。
1つまたは複数の製品フォルダのアイコンのリストが表示されます。
 - b. 製品フォルダのアイコンの横にある三角形(>)をクリックして、ソフトウェアリリースのリストを表示します。
 - c. 目的のソフトウェアリリースを選択します。
例: X4470 M2 SW 1.4 または Sun SPARC Enterprise T5120。

- 7 「検索」をクリックします。
「パッチ検索結果」画面が表示され、パッチ名のリストと説明が示されます。
- 8 「パッチ検索結果」画面で、目的のパッチ名を選択します。
例: X4470 M2 Server SW 1.4.ILOM and BIOS (Patch) または Firmware SPARC Enterprise T5120 Sun System Firmware 7.1.3.2。
- 9 パッチ名の選択で、次のいずれかのアクションをクリックします:
 - **README** – 選択したパッチの **Readme** ファイルを開きます。
 - **Add to Plan** – 選択したパッチを新規または既存のプランに追加します。
 - **ダウンロード** – 選択したパッチをダウンロードします。
 - **コピー** – 選択したパッチの詳細をメモリーにコピーします。

Oracle ILOM 3.1 ファームウェアのバージョン番号方式

Oracle ILOM 3.1 では、使用しているサーバーまたはシャーシ監視モジュール (CMM) で実行しているファームウェアバージョンを識別しやすいファームウェアバージョンの番号方式を使用しています。この番号方式では、5つのフィールドがある文字列を使用しています。たとえば、a.b.c.d.e となり、ここでは:

- a - Oracle ILOM のメジャーバージョンを示します。
- b - Oracle ILOM のマイナーバージョンを示します。
- c - Oracle ILOM の更新バージョンを示します。
- d - Oracle ILOM のマイクロバージョンを示します。マイクロバージョンは、プラットフォームまたはプラットフォームのグループ単位で管理されます。詳細は、使用しているプラットフォームの製品ノートを参照してください。
- e - Oracle ILOM のナノバージョンを示します。ナノバージョンは、マイクロバージョンの増分反復です。

たとえば、Oracle ILOM 3.1.2.1.a の意味は、次のとおりです:

- Oracle ILOM 3 はメジャーバージョンです
- Oracle ILOM 3.1 はマイナーバージョンです
- Oracle ILOM 3.1.2 は2つ目の更新バージョンです
- Oracle ILOM 3.1.2.1 はマイクロバージョンです
- Oracle ILOM 3.1.2.1.a は3.1.2.1のナノバージョンです

ヒント - 使用している Sun サーバーまたは CMM にインストールされている Oracle ILOM ファームウェアバージョンを確認するには、Web インタフェースで「System Information」 > 「Firmware」の順にクリックするか、コマンド行インタフェースで `version` と入力します。

サポートとアクセシビリティ

説明	リンク
My Oracle Support を通じた電子的なサポートへのアクセス	http://support.oracle.com 聴覚障害の方へ: http://www.oracle.com/accessibility/support.html
アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについて	http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html

Oracle ILOM 3.1 時点での機能拡張

Oracle Integrated Lights Out Manager (Oracle ILOM) 3.1 のファームウェアでは、以前の 3.0 ファームウェアと同じすべての動作が提供されているほか、いくつかの新しい機能拡張が追加されています。

- 9 ページの「機能拡張のサマリー」

機能拡張のサマリー

次の表に、Oracle ILOM 3.1 のファームウェア機能拡張の一部を示します。

表 1 Oracle ILOM 3.1 時点での機能拡張のサマリー

機能	拡張機能の説明	詳細の参照先
再設計された Oracle ILOM 3.1 Web インタフェース	Oracle ILOM 3.1 では、再設計された新しい Web インタフェースが使用可能です。	■ 『ユーザーズガイド』の「再設計された 3.1 Web インタフェースをナビゲートする」
更新された Oracle ILOM 3.1 CLI ターゲットおよびブレードシステムのドリルダウン機能	3.1 には、次のようなサーバー CLI ターゲットおよびブレードシステムのドリルダウン拡張機能があります: <ul style="list-style-type: none">■ /SYS ターゲットは /SYSTEM ターゲットに置き換えられました。■ /CH ターゲットは /SYSTEM ターゲットに置き換えられました。■ /Blades ターゲットは /Servers ターゲットに置き換えられました。■ ブレードシステムサーバーのナビゲーションにシームレスなドリルダウン機能が新しく追加され、ブレードサーバーの CLI プロンプトを変更する必要がなくなりました。	■ 『ユーザーズガイド』の「コマンド行インタフェース (CLI) のターゲットネームスペースをナビゲートする」

表1 Oracle ILOM 3.1 時点での機能拡張のサマリー (続き)

機能	拡張機能の説明	詳細の参照先
Oracle ILOM 3.0 の CLI レガシターゲット	3.0 の CLI レガシターゲットはすべて使用可能ですが、非表示になります。	<ul style="list-style-type: none"> 『ユーザーズガイド』の「/SYS、/STORAGE、および/CH レガシターゲットを表示する」
シャーシ監視モジュール (CMM) 3.0 と 3.1 のブレード管理の互換性	3.0 ブレードシステムサーバーを 3.1 CMM から表示および管理できます。	<ul style="list-style-type: none"> 『ユーザーズガイド』の「CMM Web インタフェース: ブレードサーバーのビュー」
システムステータス、サブコンポーネントステータス、および未解決の問題のセンサー	3.0 で提供されていたセンサー統計情報はすべて、3.1 ではシステムサマリーとサブコンポーネントの健全性ステータス、および「Open Problems」レポートに置き換えられました。	<ul style="list-style-type: none"> 『ユーザーズガイド』の「情報とステータスの収集、および一般的なアクションの開始」 『ユーザーズガイド』の「未解決の問題の管理」
Storage Viewer	<p>3.0 の Storage Viewer は、3.1 では Storage という名前に変更されました。</p> <p>3.1 では、3.0 と同じすべてのストレージ動作に加え、RAID ボリュームのディスク値をほぼリアルタイムで表示する追加の機能拡張を使用できます。ストレージの健全性の詳細はすべて、Web インタフェースの「Storage」または CLI の /System/storage ターゲットに表示されます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 『ユーザーズガイド』の「サブコンポーネントレベルの情報と健全性ステータスを表示する (Web)」 『ユーザーズガイド』の「サブコンポーネントレベルの情報と健全性ステータスを表示する (CLI)」
PCI アドオンデバイスのインベントリ	3.1 では、PCI アドオンデバイスで新しくインベントリおよび健全性ステータス情報を使用できます。	<ul style="list-style-type: none"> 『ユーザーズガイド』の「サブコンポーネントレベルの情報と健全性ステータスを表示する (Web)」 『ユーザーズガイド』の「サブコンポーネントレベルの情報と健全性ステータスを表示する (CLI)」
ホストサーバーのオペレーティングシステムの識別	ホストの管理対象サーバーに Hardware Management Pack ソフトウェアが存在する場合は、ホストサーバーのオペレーティングシステムの識別情報が 3.1 の「System Summary」Web ページまたは CLI の /SYSTEM ターゲットに表示されます。	<ul style="list-style-type: none"> 『ユーザーズガイド』の「システムレベルの情報と健全性ステータスを表示する (CLI)」
Oracle System Assistant	x86 管理対象サーバーの Oracle System Assistant を 3.1 の「System Summary」Web ページまたは CLI から起動できます。	<ul style="list-style-type: none"> 『ユーザーズガイド』の「x86 Oracle System Assistant を起動する」

表1 Oracle ILOM 3.1 時点での機能拡張のサマリー (続き)

機能	拡張機能の説明	詳細の参照先
x86 BIOS 構成管理	3.1 では、x86 サーバーの BIOS 構成管理を Web インタフェースまたは CLI から使用できます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『構成および保守』の「x86 BIOS 構成パラメータの保守」
監査ログ	以前 3.0 で提供されていたイベントログに加え、3.1 では新しい監査ログを使用できます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『ユーザーズガイド』の「Oracle ILOM のログエントリの管理」
電力履歴の Web グラフ表示	3.0 で提供されていたすべての電力管理機能に加え、3.1 では新しく電力履歴の Web グラフ表示機能を使用できます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『ユーザーズガイド』の「電力履歴パフォーマンスの比較」
障害管理: 障害のクリアー	Oracle ILOM 3.1 で報告されたシステム障害は、障害の発生したコンポーネントを交換すると自動的にクリアーされます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『ユーザーズガイド』の「Oracle ILOM 障害管理シェルによる Sun ハードウェア障害の管理」

Oracle ILOM 3.1.x ファームウェアに対する更新

このセクションでは、Oracle ILOM 3.1 ファームウェアの最初のポイントリリース、および既知の問題とその回避方法の一覧を示します。

- 13 ページの「サーバーおよび Sun Blade 6000 CMM に対する最初の 3.1 ポイントリリース」
- 14 ページの「Oracle ILOM 3.1 の既知の問題」
- 16 ページの「Oracle ILOM 3.2.1 時点での WS-Man の非推奨通知」
- 16 ページの「翻訳されたドキュメントのドキュメントタイトル」

サーバーおよび Sun Blade 6000 CMM に対する最初の 3.1 ポイントリリース

次の表は、Oracle Sun x86 サーバーサービスプロセッサ (SP)、SPARC サーバー SP、またはシャーシ監視モジュール (CMM) に使用できる最初の Oracle ILOM 3.1 ファームウェアポイントリリースを示しています。

サーバー SP または CMM	最初の Oracle ILOM 3.1 ファームウェアポイントリリース
x86 サーバーサービスプロセッサ (SP)	3.1.0 ファームウェアリリース以降
Sun Blade 6000 CMM ¹	3.1.1 ファームウェアリリース以降
SPARC SP	3.1.2 ファームウェアリリース以降

¹ 3.0 ファームウェアを実行しているブレードサーバーは、3.1 ファームウェアを実行している CMM から表示および管理できません。

サーバー固有の Oracle ILOM 機能の詳細については、使用しているサーバーの管理ガイドを参照してください。

Oracle ILOM 3.1 の既知の問題

このセクションでは、Oracle ILOM 3.1.0 の時点で既知の問題と回避方法について説明します。各問題固有の変更リクエスト (CR) 番号と回避方法または更新が存在する場合は、あわせて示します。

トピックの説明	リンク
Windows XP IPv6 クライアントからの Oracle ILOM リモートコンソールの起動はサポートされていません。	14 ページの「Windows クライアントに関する Oracle ILOM リモートコンソールの IPv6 の要件」
Firefox ブラウザのナビゲーションパネルにセキュリティメッセージが表示されます。	14 ページの「Firefox ブラウザで Oracle ILOM 3.1 のナビゲーションペインにセキュリティメッセージが表示される」
Internet Explorer 6 のユーザーはブラウザ環境をアップグレードする必要があります。	15 ページの「Internet Explorer 6 のユーザーが Web インタフェースにアクセスするには、ブラウザ環境をアップグレードするか、カスタム証明書と鍵をアップロードする必要がある」
ネットワークの問題のために Java リモートコンソールが切断されることがあります。	15 ページの「ネットワークの問題のために Java リモートコンソールが切断される」

Windows クライアントに関する Oracle ILOM リモートコンソールの IPv6 の要件

CR 6993498

問題: IPv6 ネットワーク環境の場合、Java Development Kit (JDK) は Microsoft Windows XP をサポートしないため、Windows XP IPv6 クライアントからの Oracle ILOM リモートコンソールの起動はサポートされていません。

回避方法: IPv6 を使用し、Microsoft Windows オペレーティングシステムを実行しているネットワーク環境では、JDK170b36 以降を使用する Microsoft Windows Vista/2008/7 クライアントから Oracle ILOM リモートコンソールを起動します。

Firefox ブラウザで Oracle ILOM 3.1 のナビゲーションペインにセキュリティメッセージが表示される

CR 7052145

問題: Firefox ブラウザのバージョン Firefox 4 以降を使用している場合、ナビゲーションペインにセキュリティーメッセージが表示されることがあります。

回避方法: ナビゲーションペインを右クリックし、「更新」を選択します。

Internet Explorer 6 のユーザーが Web インタフェースにアクセスするには、ブラウザ環境をアップグレードするか、カスタム証明書と鍵をアップロードする必要がある

CR 7122399

問題: Oracle ILOM 3.1.0 にアップグレードしたあと、Internet Explorer 6 を使用して Oracle ILOM Web インタフェースにアクセスできません。

回避方法: 次のいずれかを実行します:

オプション 1- ブラウザを Internet Explorer 7 以降にアップグレードするか、より新しい同等の別のブラウザにアップグレードします。

オプション 2- CLI にログインし、次の操作を実行します:

1. 弱い暗号を有効にします:

```
set /SP/services/https weak_ciphers=enabled
```

2. カスタムの鍵をアップロードします:

```
set /SP/services/https/ssl/custom_key load_uri=<load uri>
```

3. カスタムの証明書をアップロードします:

```
set /SP/services/https/ssl/custom_cert load_uri=<load uri>
```

ネットワークの問題のために Java リモートコンソールが切断される

CR 7141880

問題: Oracle ILOM または Java リモートコンソールにログインするときにネットワークが遅い場合、Java リモートコンソールがリモートシステムに接続できないことがあります。

回避方法: 次のいずれかを実行します:

- 10.X.X.X ネットワークにプロキシを使用しないようにブラウザを手動で構成します。

- 次のいずれかのディレクトリにある JavaWS キャッシュディレクトリを削除します:

```
$HOME_DIR/.java/deployment/cache/javaws/6.0
```

```
$HOME_DIR/.java/deployment/cache/javaws/https
```

Oracle ILOM 3.2.1 時点での WS-Man の非推奨通知

ファームウェアリリース 3.1.2 現在、WS-MAN API は Oracle ILOM で非推奨にされており、将来のリリースで削除される予定です。Oracle ILOM バージョン 3.1.2 以前では、引き続き WS-MAN API をサポートします。

WS-MAN とは、Distributed Management Task Force (DMTF) によって公開されている WS-Management 仕様のことです。WS-MAN では、管理情報へのアクセスおよび交換のための一般的な方法が指定されています。

翻訳されたドキュメントのドキュメントタイトル

PDF ドキュメントの翻訳版では、省略されたドキュメントタイトルが相互参照に使用されています。省略されたタイトルは、次の表に示す完全なドキュメントタイトルに対応します。

省略されたドキュメントタイトル	完全なドキュメントタイトル
Oracle ILOM 3.1 クイックスタート	Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 クイックスタートガイド
Oracle ILOM 3.1 ユーザーズガイド	Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ユーザーズガイド
Oracle ILOM 3.1 構成および保守	Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 構成および保守ガイド
Oracle ILOM 3.1 基本 CLI コマンドリファレンス	Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 基本 CLI コマンドリファレンス
Oracle ILOM 3.1 プロトコル管理リファレンス	Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 SNMP、IPMI、CIM、WS-MAN プロトコル管理リファレンスガイド
Oracle ILOM 3.1 機能更新およびリリースノート	Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 機能更新およびリリースノート